山梨県と静岡県の連携企画

芸術の源泉としての富士山を巡る

新型コロナウイルス感染症の影響により農産物などの売り上げが落ち込む中、山梨県と静岡県が連携して、お互いの県の特産品を紹介し、購入し合うことで生産者を支援する取り組み「バイ・ふじのくに」が始まっています。これをきっかけに、今後、さまざまな分野で両県の交流が活発化することが期待されています。両県の美術館などでは、富士山をテーマにした芸術作品を数多く収蔵・展示しています。古くからその雄大な姿は、多くの人を魅了し続け、さまざまな芸術作品が生まれてきました。その魅力の一端をお楽しみください。

1 三十六富士 石和早春

山梨らしい富士山、現代の富士山版画

甲府市出身の萩原英雄は、葛飾北斎の「冨嶽三十六景」に学びながら、浮世絵の木版画技法をアレンジした連作木版画「三十六富士」をつくり出した。そのうちの1点「石和早春」では、山梨からの眺めらしい、山並みの向こうにちょこんと頭を出す富士山が表現されている。山頂は「きめこみ」という技法による凹凸が付けられ、白い雪に表情が生まれている。

萩原英雄 木版画　（山梨県立美術館蔵）

2 冨嶽三十六景 甲州三坂水面

夏と冬!?どちらの富士山も楽しもう!

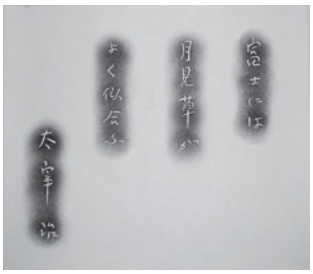
「冨嶽三十六景」は、葛飾北斎による富士山を題材とした風景画のシリーズ。「甲州三坂水面」は甲府盆地と河口湖を結ぶ御坂峠からの景色を描いている。実際の富士山が夏であるのに対し、河口湖面に映る逆さ富士には雪が積もっているところが面白い。

葛飾北斎 錦絵　（山梨県立博物館蔵）

3 太宰治「富嶽百景」

太宰治、富士山の見える地で生まれ変わる!?

太宰没後、御坂峠に建てられた文学碑に「富嶽百景」の一節「富士には月見草がよく似合ふ」が刻まれた。東京で荒れた生活を送っていた太宰は、作家・井伏鱒二（ますじ）の誘いで御坂峠の天下茶屋に滞在。豊かな自然の中、富士山に向き合い心身の健康を取り戻し、作家として再生していく。この一連の出来事が「富嶽百景」に描かれた。



御坂峠文学碑拓本 軸装　（山梨県立文学館蔵）

4 富士曼荼羅図

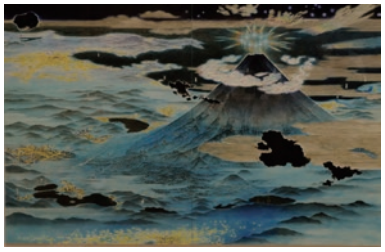
吉田口からいざ富士登山！

江戸時代に活躍した絵師・春木南溟（はるきなんめい）による作品。富士が布中央に、その下に富士北麓の北口本宮冨士浅間神社が描かれている。境内の建物はおおむね実景を反映したものとなっており、さらに境内奥の登山門から山頂まで登山道は続いている。

春木南溟 絹本着色　（山梨県立博物館蔵）

ここから下の段は広告です。広告の内容については、広告主にお問い合わせください。

さまざまな場所から見た富士山をテーマに多くの芸術作品が生まれています



山口晃 油彩・墨　（山梨県立富士山世界遺産センター蔵）

5 富士北麓参詣曼荼羅

富士山の構成資産も描かれた現代版参詣曼荼羅

現代の絵師・山口晃は時空を超え、富士山北面の信仰世界を表現した。九つの光が輝く富士山頂は仏の世界。はるか遠くには房総半島や霞ヶ浦。北麓の富士吉田に多くの人々が集う姿、ともしびが輝く東京にはスカイツリーも描かれている。

狩野伊川院栄信 絹本墨画
（静岡県富士山世界遺産センター蔵）

1 富士三保清見寺図

日本人の景観認識に影響を与えた富士山絵画の基本構図

伝雪舟筆「富士三保清見寺図」は、江戸時代の初めに絵画史の古典としての地位を確立し、将軍の御用を務めた江戸狩野派の画家たちにより主に写し継がれる。本作はその江戸時代後半における翻案作。作者である狩野伊川院栄信は、画面構成やモチーフの形態をアレンジしている。

木村武山 絹本着色（上・左隻、下・右隻）
（静岡県立美術館蔵）

2 羽衣伝説

海と山と天空をつなぐ三保松原の羽衣伝説

駿河湾越しに富士山を望む白砂青松の地・三保松原は、天女と漁師の羽衣を巡る羽衣伝説があることでよく知られており、多くの芸術作品に描かれている。能の人気作品「羽衣」では、羽衣を返してもらった天女は、美しく舞いながら富士山のかなたへと消えてゆく。画像は近代の日本画家・木村武山が描いた屏風「羽衣」。

1 2 三保松原

静岡県の広報紙にも掲載されました

静岡県の広報紙「県民だより2月号」にも芸術の源泉としての富士山をテーマに、両県の芸術作品が紹介されました。県民だよりはホームページでご覧いただけます。併せてぜひお楽しみください。

静岡県　県民だより

静岡県広報紙 県民だより 2月号　令和3年（2021年）1月31日（日）発行

静岡×山梨

富士山が描かれた芸術作品

富士山にまつわる絵画や文学作品で、静岡県と山梨県を巡ってみましょう。

文学

「万葉集」山部赤人の短歌

歌の名人も心を打たれた！いにしえの富士の姿

▲市人が見た富士山を眺めることができる場所

小泉八雲「富士の山」

（「異国情緒と伝説」に収録）

八雲も絶賛！富士山頂からの光景

▲写真左が小泉八雲

山梨ならではの富士山の魅力を！

柴田 晃平さん

絵画

太宰治「富嶽百景」

太宰治、富士山の見える地で生まれ変わる!?

▲農家歴史館の学生塾から「富嶽百景」の一節（御坂峠文学資料室 解説・山梨県立文学館蔵）

ここから下の段は広告です。広告の内容については、広告主にお問い合わせください。